

令和6年度 アーツ前橋事業評価調書

資料 2-(1)

基本事項	事業名	アーツ前橋企画展「はじまりの感覚」																						
	会期	2025年1月25日[土]~2025年3月23日[日]					開館日数	50 日間																
	会場(ギャラリー)	地下ギャラリー					実施方式	01自主企画・単独方式																
	観覧料	一般	600 円				出品点数	88点																
		割引	400 円																					
	担当者	学芸:辻 瑞生、東美沙季 事務:徳野裕一																						
	目的 (一覧表)	「みる」「きく」「さわる」「すわる」といった多様な行為を通して身体感覚をひろげ、鑑賞体験の可能性を探る展覧会。美術館デビューのきっかけとなるなど、普段美術館に足を運ばない人へリーチすることを目指す。																						
	キーワード	みる、きく、さわる、インクルーシブ、感覚をひらく																						
	他団体との連携 (共催、協力等)	ぐんまインクルーシブアート環境創造プロジェクト実行委員会、前橋点訳サークルむつみの会、みずわ工業株式会社(山城作品協賛)、無印良品前橋中央通り商店街(山極作品協力)																						
		前橋市障害福祉課																						
		参加作家	三輪途道	山極満博		山城大督																		
① 投入 (支出) ・ ③ 結果 (収入)			小野田賢三	野村誠		鴻池朋子	草間彌生																	
			ペ・ヨンファン	ほか																				
			①演奏会「音をみる」(角銅真実、山城大督) 2/22 ②さわっておしゃべりアートデイズ 2/15 2/25 3/1 3/18 ③対話型鑑賞プログラム「おしゃべりアートデイズ」 2/15 3/14 3/15 ④みんなつながる上毛かるた体験会 2/15 ⑤トークセッション「不確かさ—ふつうという水位」(高柳恵里、四方幸子、山極満博) 3/16 ⑥学芸員によりギャラリー・トーク 2/9、3/6																					
印刷物等	ポスター(B2)	チラシ(A4)	館内マップ		セルフガイド	リーフレット		図録																
		1,000部	35,000 部																					
	収入／支出	収入(A)	支出(B)	収支比率 (A)/(B)	入館者一人当たりコスト	収入内訳																		
						観覧料	助成金	他																
		予算	440,000 円	11,918,560 円	3.7%	3,973 円	440,000 円		0 円															
		決算見込	1,125,000 円	10,623,720 円	10.6%	2,282 円	1,125,000 円		0 円															
		差額	685,000 円	-1,294,840 円	6.9%	-	685,000 円																	
		予算／決算	255.7%	89.1%	286.8%	57.4%	256%	#DIV/0!	#DIV/0!															
② 内容 ・ 活動	〔②内容〕 事業の概要	事業の概要 (転記)	当館と関わりが深い3人のアーティスト、三輪途道、山極満博、山城大督の協力を得て、美術館での「鑑賞体験」や「感覚」について意見交換を重ねながら企画する。3名の新作に館蔵作品を加えて展示を構成し、視覚にとどまらない五感による作品鑑賞の可能性を提示する。																					
			・広報戦略 ・新たな試み (転記)																					
	主な取組(手段) の結果 ・メディア等広報実績 ・新たな試み 図録 関連イベント 助成 など ●指標 来館者反応	広報実績 [新規掲載や 効果が大き かった媒体な ど、特別な案 件]	・本市障害福祉課の発送リストを参考に、市内障害者施設や福祉施設などへの広報した ・県視覚障害者福祉協会が発信する音声による情報案内で展覧会を紹介 ・県内美術館や企業が参加する「ぐんまインクルーシブアート環境創造プロジェクト実行委員会」と連携して、市内4か所で関連展覧会を同時開催 ・視覚障害者の方にも参加してもらえるような対話型鑑賞会を実施																					
			幼児が作品に触れたり寝転がったりして鑑賞する様子を映像化し、SNSで若年層・子育て世代に向けて配信。アンケート回答によると、展覧会を知ったきっかけ「SNS」が32.4%と他展覧会と比べても割合が高かった。 NHK前橋放送局「ほっとぐんま630」にて「美術館デビューにどうぞ」と紹介された。 「上毛新聞」「朝日新聞」「読売新聞」「毎日新聞」各紙に記事掲載された。																					
		新たな試 みの実績	触れる対話型鑑賞会はのべ106名が参加したが、視覚に障害のある方の参加は3名にとどまり、知的障害者29名、園児25名のほかは、一般の方だった。 福祉施設や保育園、小学校での団体来館が通常よりも多かった。																					
③ 結果	入場者数(参考数値) 上段:人数(人) 下段:割合(%) ※色付きは有料観覧者	一般	学生	65才以 上	団体	高校生 以下	招待券	割引等	視察	イベント	他	合計 (人)												
		1,633	220	139	0	561	515	4	19	315	1,250	4,656												
		35.1%	4.7%	3.0%	0.0%	12.0%	11.1%	0.1%	0.4%	6.8%	26.8%	93												
	一般指標	指標		目標値		達成値		達成率		特記事項														
		入場・参加者数		3,000 人		4,656 人		155.2% %																
		展覧会満足度		80 %		83.4 %		104.3% pt		アンケートに、「満足」、「やや満足」と記入があつた割合(無回答を除く)														

令和6年度 アーツ前橋事業評価調書(2)

③ 結果	事業名	アーツ前橋企画展「はじまりの感覚」						
	進捗管理 [スケジュール観]	A.概ね円滑に進んだ B.遅延気味であった 開館後まで積み残しとなった事項:						
④ 成果	〔④成果〕 一覧表の「目標」に対する結果 ・観覧者層のターゲット ・ねらい	観覧者層のターゲット	前橋市民、子育て世代・障害者など美術館に来館する機会が少ない人					
		成果	アンケート回答によると、前橋市内が41.5%、他展覧会と比べても割合が高く、市民に足を運んでもらうことができたようだ。 展覧会を通じて、幼児や障害者、子育て世代など幅広い層の来館がみられ、来館者層の拡大につながった。盲導犬との来場(開館以来2回目)1件、幼稚園5件、フリースクール1件、高等専修学校1件の見学があった。					
		ねらい1 (転記)	五感を通した体験型の展示により、鑑賞の多様性を示す					
		成果	三輪途道、鴻池朋子のさわれる作品の展示や、山城大督の座ったり寝ころがつたりしながら音や映像を鑑賞するインスタレーション、小野田賢三、野村誠など聞く作品などを展示了した。					
		ねらい2 (転記)	収蔵作品やコミュニケーションワークの活用					
		成果	開館以来設置している山極満博作品を一部リニューアルし、新たに1点を加えた。 野村誠がワークショップ参加者とともに制作した曲を、収蔵作品とともに展示したことが、アンケートでも高評価だった。 寄託作品(鴻池朋子作品)を展示活用することができた。					
		ねらい3 (転記)	福祉・教育との連携を通じて、美術館の社会的包摶機能を可視化する					
		成果	ぐんまインクルーシブアート環境創造プロジェクト実行委員会に参加する群馬近美、館林美術館、アーツ前橋が共同で視覚障害者の作品鑑賞をサポートするボランティアを育成を行い、ボランティアの実践の場とした。本取り組みは、今後も引き続き継続する。					
⑤ 波及効果	個別評価 ※記入日を()内に入れてください ※概ね1年経過毎に再確認して修正	<1~6は、記入項目の例・無い場合は削除。独自の評価項目の設定可。記入日を記載> 1. 参加作家のその後の活動を評価⇒三輪途道は2025年8月に東京都美術館でのグループ展に参加し、2025年11月には佐賀大学付属美術館、2026年には奈良県美での展覧会を予定している。 2. アーツの事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価 ⇒後日、記入 3. 事業関係者(作家、運営、イベント参加者、地域住民)たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価⇒ぐんまインクルーシブアート環境創造プロジェクト実行委員会として、現在も県内美術館や県内企業と連携してボランティア育成などに協力している。 4. 事業の実施に伴う波及効果 ⇒同時開催した4つの展覧会と回遊性を持つことができた。 5. 地域資源の活用という点での効果 ⇒収蔵作品を活用することができたが、さらに調査研究を進めていく必要がある。 6. 意図せざる(思わぬ)効果 ⇒後日、記入						
自己評価 (担当者)	効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか	1.非常に良い 2.良い 3.普通 4.劣る						
	合目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い 2.良い 3.普通 4.劣る						
	事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	1.非常に良い 2.良い 3.普通 4.劣る						
	社会的将来性 ③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	1.非常に良い 2.良い 3.普通 4.劣る						
	課題・改善点	本展は、当館がこれまでに取り組んできた鑑賞体験の拡張をアーティストとともに実践的に展開したものであった。アンケート回答によると概ね好評であったが、「五感」「さわれる」を出した割には全ての作品がさわれず、また文字情報なども極力少なくしたために、「わかりにくい」という感想もあった。 館内マップやキャプションなどには、ピクトを表示し、一部作品には点字も作成したが、さらに伝わりやすい情報掲出を心がけたい。						
引継ぎ事項 (特記事項)		多様な来館者が安心して参加、来館できるよう、館内スタッフの研修が必要						
コメント・意見		館長 副館長	五感を通した体験型の展示により、鑑賞の多様性を示すことにつながり、幼児や障害者、子育て世代など幅広い層の来館がみられた意義深い企画であった。来館者の満足度も良好(83.4%)で、概ね好評であったと捉えることができる。半面、観覧者数や視覚に障害のある方のイベント参加数は今後の課題といえるが、このような企画や情報発信を継続していくことが重要であると考える。					
		運営 評議会						